

『帆船』から『金蝙蝠』へ  
— 日本近代詩潮史研究の一環として —

佐々木 靖章\*

(2004年10月4日受理)

The Study of Current Japanese Modern Poetry from the Poetical Magazine  
from *HANSEN* to *GOLDEN BAT*

Yasuaki SASAKI\*

(Received October 4, 2004)

I 本論の目的

韻文の分野，とくに近代詩の分野においては，散文の分野に比べて必ずしもきめ細かな研究がなされているとは限らない。むしろ，特定の詩人なりグループに研究が偏っているとも言えるのではなかろうか。その原因の一つは，「詩の定義」，分かりやすく言えば「詩らしさ」の認識が，研究者によって大きく異なるからである。そして，本格的な詩の研究者が，実は少なく，歌人や俳人が評論家のみならず研究者を兼ねている以上に，詩の研究者と自認する人も，詩人が圧倒的に多いという現状があるからではないかと思われるのである。しかし，日本近代において，日本語の新しい言葉の生成と交替，その獲得と展開の一翼を担ってきたのが，歌人や俳人に加うるに詩人の存在があったとすれば，近代詩の研究は，従来のしがらみを断ち切って原点にかえり，見落としてきた詩人，詩集，詩雑誌，その同人やエディターたちを改めて蘇らせる必要を痛感するのである。

見落とされてきた詩の思潮の流れを解明するために，本論では，多田不二が主宰した『帆船』と『馬車』，そして『帆船』を母体に出発した『金蝙蝠』，それに『金蝙蝠』に合流した『更生』それぞれの主要目次をまず掲げ，残された紙面で解題，解説を施した。また，『帆船』と『馬車』の主要な表紙，『金蝙蝠』9冊の表紙，『更生』全8冊の表紙を載せた。<sup>1)</sup>

目次における〔 〕内は，筆者の注記。分類は原則として目次のそれに従った。詩は注記しなかったが，目次に「散文詩」とある場合は注記した。表紙の色は注記しなかった。四倉耀一は耀一ともあるが耀一に，鈴木顕児は顕児ともあるが顕児に統一した。同一作者によるもの，同一題目で何人かが書いている場合は／で区切り続けて載せた。なお，本目次の中に，明らかに差別用語が使用されている例が散見されるが，歴史的な意味を持つものとして敢えてそのまま残した。ご了解いただきたい。

\*茨城大学教育学部国語教育講座（〒310-8512 水戸市文京2丁目1-1）

## II 第一次『帆船』主要目次



図版A

## 1 創刊号（大正十一年三月一日発行）

〔表紙・図版A〕

- \* 表紙 恩地孝四郎
- \* 〔創刊宣言〕〔表紙裏〕 Fuji
- \* 現代独逸詩壇に於ける神秘派〔評論〕 茅野蕭々
- \* 最近の露西亞詩壇(1)〔評論〕ア・ヤーシチェンコ  
プロレタリアの詩に就て 四倉耀一抄訳
- \* 神秘主義と科学〔評論〕 アナトオル・フランス  
久爾田路雨抄訳
- \* 日本の現詩壇と神秘的傾向〔評論〕 多田不二
- \* 疾める薔薇 キリヤム・ブレエク  
日夏耿之介訳
- \* 理想 シュレイ・プリュンドム  
福士幸次郎訳
- \* 静かなる市 デエメル  
藤森秀夫訳
- \* 露西亞詩抄 原文訳  
「安静な夜は来た」 ソロゲーブ  
幻影／三羽の鳥 バリモント  
自由にわたしを埋めよ ゴロデツキー  
翅に就ての祈り メレジコフスキー  
「十二」の詩よりの断片 ブロック
- \* 青磁〔散文詩〕／ゆめばかり見たあと／暗夜 室生犀星
- \* 海 白鳥省吾
- \* 天の蜂 恩地孝四郎
- \* 雪どけ 尾崎喜八

- \* 都会小曼陀羅帳 1 珈琲店 中西悟堂
- \* 奢侈／塔を築いて 板垣芳男
- \* 漂泊者／虫が鳴いてゐる 田辺若男
- \* 裏道の女 中田信子
- \* 夜の魔力 林信一
- \* 唾 佐藤惣之助
- \* 石を切り出す山 百田宗治
- \* 夜の精霊 多田不二
- \* 深夜凶談〔感想〕 佐藤惣之助
- \* 詩壇偶感〔感想〕 街の人
- \* 水仙花 笹沢美明
- \* 魂は磨かれてゆく 高橋篤治
- \* 水晶の珠 柳橋好雄
- \* 憂鬱な星夜に囁く額－杉江重英兄に捧ぐ－ 宮崎孝政
- \* 時過ぎ行けど 藤田健次
- \* 傷ついた蟬を手にして 東 光
- \* 煉獄の深夜 河尻修一郎
- \* 死にゆく者 千石喜久
- \* 同人雑誌短評 不二
- \* 編輯の後に 不二

## 2 四月号（大正十一年四月五日発行）

- \* 表紙〔創刊号に同じ〕 恩地孝四郎
- \* 〔創刊宣言〕〔表紙裏，創刊号に同じ〕 Fuji
- \* ポーとボオドレエルとの関係－その序論－〔評論〕 白鳥省吾
- \* 神秘主義と科学(2)〔評論〕 アナトオル・フランス  
久爾田路雨抄訳
- \* 立体詩の見本一つ〔評論〕 川路柳虹
- \* 最近の露西亞詩壇(2)〔評論〕ア・ヤーシチェンコ  
神秘的傾向の詩人 四倉耀一抄訳
- \* 「曙の声」を読む〔評論〕 多田不二
- \* 露西亞詩抄 原文訳  
月の夜 バリモント  
混沌たる年に誕生 ブロック  
詩篇 ローブシン
- \* おまへが来たならば 室生犀星  
おまへが来たならば ゲリット・エンゲルケ  
笹沢美明訳

- |                                               |              |                      |           |
|-----------------------------------------------|--------------|----------------------|-----------|
| * 村の黄昏                                        | ゲリット・エンゲルケ   | * 印度詩抄               | 多田不二訳     |
|                                               | 笹沢美明訳        | 不毛の心／時               | ロービイ・ダッタ  |
| * 内部への月影                                      | 萩原朔太郎        | * 祭壇／神祕は真昼にある        | 百田宗治      |
| * 驢－南京所見－                                     | 斎藤勇          | * 室内                 | 恩地孝四郎     |
| * 青白き部屋                                       | 林信一          | * 四月の人々              | 佐藤惣之助     |
| * 都会小曼陀羅帳 2 掏摸                                | 中西悟堂         | * 都会小曼陀羅帳 3 貧民窟      | 中西悟堂      |
| * ああ、死は／鷺よ                                    | 田辺若男         | * 雨上りの町景色            | 陶山篤太郎     |
| * 冬月／薄暮                                       | 板垣芳男         | * 煙を吐く墓標             | 中田信子      |
| * 私自身神秘の所有者だ                                  | 中田信子         | * 宿の春                | 田辺若男      |
| * 塔／無題詩                                       | 多田不二         | * 私に播れた一粒の悲哀         | 宮崎孝政      |
| * 魔の本〔感想〕                                     | 佐藤惣之助        | * 展望／寂日              | 山田小四郎     |
| * 詩の手帳から〔感想〕                                  | 中西悟堂         | * 年甲斐もない私            | 藤田健次      |
| * 憂鬱馬車                                        | 笹沢美明         | * 夜更けの街              | 東 光       |
| * 猫                                           | 東 光          | * 夢                  | 鈴木穎児      |
| * 雲                                           | 藤田健次         | * 太陽にひろはれし子の唄へる      | 河東達雄      |
| * 月夜／種子                                       | 宮崎孝政         | * 感情（夏の女におくる）／蛙      | 笹沢美明      |
| * 郊外電車                                        | 鈴木穎児         | * 失へる微笑              | 林信一       |
| * 独法師                                         | 河東達雄         | * 春                  | 多田不二      |
| * 飢ゑ                                          | 山田小四郎        | * 続魔の本〔感想〕           | 佐藤惣之助     |
| * 影に脅ゆる                                       | 河尻修一郎        | * 青葉の窓〔感想〕           | 林信一       |
| * 死滅の冬                                        | 千石喜久         | * 独語〔感想〕             | 森の人       |
| * 盲人                                          | 為我井牧鳥        | * 同人雑誌短評（四月号から）      | 不二        |
| * 同人雑誌評                                       | 不二           | * 編輯後記               | 多田        |
| * 編輯後記                                        | 〔多田不二〕       |                      |           |
| <b>3 初夏号（大正十一年五月十五日発行）</b>                    |              |                      |           |
| * 表紙〔創刊号に同じ〕                                  | 恩地孝四郎        | * 表紙〔創刊号に同じ〕         | 恩地孝四郎     |
| * 〔創刊宣言〕〔表紙裏、創刊号に同じ〕                          | Fuji         | * 〔創刊宣言〕〔表紙裏、創刊号に同じ〕 | Fuji      |
| * 詩壇時言〔評論〕                                    | 萩原朔太郎        | * 情調哲学に就て〔評論〕        | 多田不二      |
| * アルフレッド・モムベルトの詩篇「散歩」に就いて（ファウト・ウォルフの「現代の詩」より） |              | －萩原氏の『新しき欲情』を読む－     |           |
| 〔評論〕                                          | 笹沢美明訳        | * 二人の悪魔派詩人〔評論〕       | 白鳥省吾      |
| * 最近の露西亞詩壇(3)〔評論〕ア・ヤーシチェンコ                    |              | －ポーとポオドレエルとの関係（本論）－  |           |
| 教会拒否の農民革命の詩人                                  | 四倉耀一抄訳       | * ドイツ詩抄              | 藤森秀夫訳     |
| * フランス詩抄                                      | 久爾田路雨訳       | 真夜中に／九月の朝            | メエリケ      |
| 洗濯場の聖母                                        | ギャプエル・ヴィケエル  | * イギリス詩抄             | 中西悟堂訳     |
| 恋化粧                                           | エルネスト・レウルドレエ | エデンの川／スウエデンボルグ       |           |
| * ロシア詩抄                                       | 原文訳          |                      | キリアム・ブレエク |
| 苦痛もない／人生／其岡の上に                                |              | * フランス詩抄             | 高橋邦太郎訳    |
|                                               | メレジコフスキー     | 断章                   | ジャン・モレアス  |
| * イギリス詩抄                                      | 中西悟堂訳        | * ロシヤ詩抄              | 原文訳       |
| 煙突人夫                                          | キリアム・ブレエク    | 修道院の春                | ゴロデツキー    |
|                                               |              | * 夕暮                 | 千家元麿      |
|                                               |              | * 異園／蒼ざめた遁走／庭先／不安心   | 竹村俊郎      |

- |                             |              |                             |       |
|-----------------------------|--------------|-----------------------------|-------|
| * 思ふこと                      | 尾崎喜八         | * 月夜                        | 鈴木穎児  |
| * 深夜のシルエット                  | 林信一          | * 夜に狎れて                     | 角田竹夫  |
| * 鳶／燕子花                     | 中西悟堂         | * 灰色の行列                     | 東 光   |
| * 魂を奪はれた水                   | 中田信子         | * 眸                         | 林信一   |
| * 遺書                        | 青手慧          | * 同人雑誌詩評                    | 不二    |
| * 芽／夜更けの風                   | 東 光          | * 編輯後記                      | 不二    |
| * 白木蓮                       | 都築益世         | <b>6 九 月 号（大正十一年九月一日発行）</b> |       |
| * 思ひ出の電車                    | 沢田春夫         | * 表紙〔創刊号に同じ〕                | 恩地孝四郎 |
| * 妄想                        | 千石喜久         | * 〔創刊宣言〕〔扉，創刊号のものを縮約〕       | Fuji  |
| * 早春の夜                      | 鈴木穎児         | * 騎士／反省                     | 多田不二  |
| * とほい記憶                     | 村田信一         | * 不吉な予感                     | 中田信子  |
| * 青葉                        | 田辺若男         | * 花あかく／病める                  | 恩地孝四郎 |
| * 蟹の世界をのぞいた男                | 難波英夫         | * 朝霧／夜の街道にて                 | 笹沢美明  |
| * 友に                        | 宮崎孝政         | * 荒磯の雑音－白渚詩篇(2)－／黒い帆船／燈台    | 林信一   |
| * ぼるじあの壺                    | 笹沢美明         | * ロシヤ詩抄                     | 原文訳   |
| * 晩春／曳影                     | 多田不二         | ひとりぼつち                      | パールイ  |
| * 未来派詩人の群〔評論〕               | ア・ヤーシチェンコ    | 月                           | バリモント |
| 最近の露西亞詩壇                    | 四倉耀一抄訳       | 遠い遠景より                      | イワノフ  |
| * 穢多町通信〔感想〕                 | 竹村俊郎         | * 海は待つ／街に呼ぶ者                | 角田竹夫  |
| * 断層〔感想〕                    | 笹沢美明         | * 無（対話）                     | 千石喜久  |
| * 旅信〔感想〕                    | 田辺若男         | * 月夜の縊死者／グリムプス              | 中西悟堂  |
| * 琉球の旅から〔感想〕                | 佐藤惣之助        | * 緩やかな坂の中途                  | 鈴木穎児  |
| * 仏独から〔感想〕                  | 鈴木良治／林俊衛     | * 夏の陰影／深夜の音                 | 沢千秋   |
| * 同人雑誌詩評                    | 不二           | * 静かな村にて                    | 岡田刀水士 |
| * 「室生犀星詩選」読後感               | 林信一          | * 海                         | 富田充   |
| * 抒情詩人コロデツキーのこと             | 丈            | * 父を喪つた子供                   | 難波英夫  |
| * 編輯後記                      | 不二           | * 墓場から                      | 田辺若男  |
| <b>5 八 月 号（大正十一年八月一日発行）</b> |              |                             |       |
| * 表紙〔創刊号に同じ〕                | 恩地孝四郎        | * 夜空に湧く雲／夏の夜／白む夜            | 東 光   |
| * 〔創刊宣言〕〔表紙裏，創刊号に同じ〕        | Fuji         | * 穢多町通信(二)〔感想〕              | 竹村俊郎  |
| * 帆船〔散文詩〕                   | ル・ミイ・ド・グウルモン | * 詩想〔感想〕                    | 角田竹夫  |
|                             | 堀口大学訳        | * 断片語〔感想〕                   | 英夫    |
| * 二人の悪魔派詩人〔評論〕              | 白鳥省吾         | * 八月詩壇評〔批評〕                 | 笹沢美明  |
| －ポーとボオドレエルとの関係－             |              | * 同人雑誌詩評〔批評〕                | 不二    |
| * 運命／赤日                     | 多田不二         | * 編輯後記                      | 不二    |
| * 老人の絵                      | 笹沢美明         | <b>7 十 月 号（大正十一年十月五日発行）</b> |       |
| * 無題                        | 竹村俊郎         | * 表紙〔創刊号に同じ〕                | 恩地孝四郎 |
| * 切通しの石垣                    | 中田信子         | * 〔創刊宣言〕〔表紙裏，6号と同じ〕         | Fuji  |
| * 酒瓶                        | 中西悟堂         | * 鍾                         | 恩地孝四郎 |
| * 彼女らの部屋                    | 原 丈          | * 犬                         | 多田不二  |
| * 夢のやうな小径／小曲                | 田辺若男         | * 意識と幻想／神と現実                | 田辺若男  |

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| * 樹間吹奏／秋の夜霧           | 鈴木穎児  |
| * 季節／初秋／蚯蚓なく／燃ゆる画布    | 東 光   |
| * 墓地に舞ふ狂者             | 中西悟堂  |
| * 不思議な太古の巨蛇           | 中田信子  |
| * 海鳴り／疵／秋             | 富田充   |
| * 野原／心の漂泊者／夕焼雲        | 原 丈   |
| * 断章                  | 岡田刀水士 |
| * 夜の歌詞／木賊／青竹／沈思するくろんぼ | 笹沢美明  |
| * 雲／北国より              | 千石喜久  |
| * 曙－白渚詩篇(4)－／海楼にて     | 林信一   |
| * 妄想、皮肉、感情〔感想〕        | 亜府生   |
| * 日記一つ〔感想〕            | 田辺若男  |
| * 八月詩壇評〔批評〕           | 富田充   |
| * 同人雑誌詩評〔批評〕          | 不二    |
| * 編輯後記                | 不二    |
- 8 十一月号(大正十一年十一月五日発行)**
- |                         |       |
|-------------------------|-------|
| * 表紙〔創刊号に同じ〕            | 恩地孝四郎 |
| * 〔創刊宣言〕〔表紙裏、6号と同じ〕     | Fuji  |
| * 啄木鳥の独白〔評論〕            | 多田不二  |
| * 動悸の邦／透明な外景            | 富田充   |
| * 月夜の教会と尼僧              | 中西悟堂  |
| * 満月                    | 原 丈   |
| * 遺伝／赤犬の死               | 千石喜久  |
| * 海鳥の死／海女               | 林信一   |
| * 秋晴れの朝／睡られぬ秋の深夜／轢死体と蝨斯 | 鈴木穎児  |
| * 無表情な月／悪疫に悩む巷／悲痛な誘惑    | 東 光   |
| * 星を喰ふ女／恋愛の市街           | 岡田刀水士 |
| * お月さんこん晩は／私の電車よ／路は険しい  | 田辺若男  |
| * 短詩数章                  | 笹沢美明  |
| * 幼年監獄／湯中の人魚            | 中田信子  |
| * 新神秘陋見〔感想〕             | 千石喜久  |
| * 十月詩壇評〔批評〕             | 田辺若男  |
| * 同人雑誌詩評〔批評〕            | 美明    |
| * 編輯後記                  | 多田    |



図版B

**9 新年号(大正十二年一月一日発行)**  
**(第二卷第一号)**

〔表紙・図版B〕

- |                                    |          |
|------------------------------------|----------|
| * 表紙                               | 恩地孝四郎    |
| * 麻の実をくだく山雀／雪のたより                  | 室生犀星     |
| * あけぼのの偷楽／ある日                      | 小島貞一     |
| * 手紙に代へて／邑井君に                      | 恩地孝四郎    |
| * 弟の家／女／おち葉／夜／農夫／歓喜                | 原 丈      |
| * 諷草亭詩篇                            | 鈴木穎児     |
| 浴泉／湖上／初冬風景／朝の街／月／寒夜                |          |
| * 夜汽車／桑の実／蜂の群／青桐の葉                 | 富田充      |
| * 恐ろしい黄昏の辻(散文詩)                    | 中西悟堂     |
| * 詩劇 死処の奇禍(一幕)                     | 千石喜久     |
| * 書架より〔感想〕                         | 多田不二     |
| * 旅信〔感想〕                           | 竹村俊郎／林俊衛 |
| * 序幕／一片の聖句／肉体／ゆもれすく／苛刑             | 笹沢美明     |
| * 燃え上つた火／朝／母うへに寄する詩／<br>貧乏人の子／夢をみた | 田辺若男     |
| * 秋の小景／微酔の秋／秋の夜の遊心                 | 東 光      |
| * 昂つた情愛／コスモス／たそがれ頃                 | 中田信子     |
| * 病鬱の桜／港へするて歌                      | 岡田刀水士    |
| * 死灰／海の言葉                          | 林信一      |
| * 時代／ある対話                          | 多田不二     |
| * 十二月詩壇評〔批評〕                       | 鈴木穎児     |
| * 編輯後記                             | 多田       |

## 10 二月号（大正十二年二月八日発行）

## （第二卷第二号）

- \* 表紙〔9に同じ〕 恩地孝四郎  
 \* 暦の亡魂 萩原朔太郎  
 \* 夢見る 佐藤惣之助  
 外套に／気ががい  
 \* 北国より／冬の風／凍えてゆく大地 東 光  
 \* 設草亭詩篇 鈴木穎児  
 深夜を歩む／疵が痛む  
 \* 港の女は唄ふ／きたない幌馬車／鳴らぬ鐘 岡田刀水士  
 \* おののき／蒼ざめた祈り 中田信子  
 \* 悪戯／寂寥 林信一  
 \* 詩壇時言〔批評〕 萩原朔太郎  
 \* ニーチェ詩篇 藤森秀夫  
 辻説法／輝ける道徳／断片  
 \* 智慧 ポオル・ベルレエヌ  
 三沢吉彦訳  
 \* 幼児－多田兄に 恩地孝四郎  
 \* 林檎／宿命／あらしの夜 笹沢美明  
 \* 収穫の後／鴨猟／眠られぬ夜 原 丈  
 \* 女人対話 千石喜久  
 \* 回想／虹／強風／工場 富田充  
 \* 追随者 多田不二  
 \* 年頭詩壇評〔批評〕 不二  
 \* 編輯後記 〔多田不二〕

## 11 四月号（大正十二年三月二十五日発行）

## （第二卷第三号，青猫合評号）

- \* 表紙〔9に同じ〕 恩地孝四郎  
 \* 春の日のかけ／草餅／日曜日 室生犀星  
 \* 悲劇風景 岡田刀水士  
 \* 労働／愛情／血をわけた母／村の友から 原 丈  
 \* 物うりの人々／郊外 中田信子  
 \* 風巻／更くる夜さ／曠野 富田充  
 \* 截られた樹／悪の樹の実／闇に咲く花／罪の美姿 東 光  
 \* 夜の女／見えない網 林信一  
 \* 笛 鈴木穎児  
 \* 氷柱－北村初雄君の霊に－ 笹沢美明  
 \* 離愁 ニイチェ  
 藤森秀夫訳

- \* 竹齡／狐火／寂心 小島貞一  
 \* 流浪者として 多田不二  
 \* 『青猫』に現れた萩原氏の憂鬱性〔評論〕 笹沢美明  
 \* 『青猫』について〔評論〕 佐藤惣之助  
 \* 『青猫』の言葉 手紙のまゝ〔評論〕 恩地孝四郎  
 \* 『萩原朔太郎』〔評論〕 鈴木穎児  
 \* 萩原君の芸術－『青猫』を通じて－〔評論〕 室生犀星  
 \* 『青猫』著者の一面〔評論〕 多田不二  
 \* 最近の感想〔感想〕 田辺若男  
 \* 編輯後記 多田

## 12 五月号（大正十二年五月一日発行）

## （第二卷第四号）

- \* 表紙〔9に同じ〕 恩地孝四郎  
 \* 夫人／孤独／美しい山賊／五月 笹沢美明  
 \* 遠方の空気／森 富田充  
 \* すもも／映画劇詩 岡田刀水士  
 \* 桜の花の下で猿と語る／火薬の香りに嘔びながら 田辺若男  
 \* 月景／吹雪に洗はれた月／雪の温み 東 光  
 \* 表情／若き漁夫／雑草の芽 原 丈  
 \* 客／灯火／暗影 林信一  
 \* 詩壇時評〔評論〕 多田不二  
 \* 倫敦から〔感想〕 竹村俊郎  
 \* 薬草／友情に昂つて／光を逐ふもの／麗かな日 中田信子  
 \* ひなたで 大井さち子  
 \* 退屈な日曜／犬と喇叭 鈴木穎児  
 \* 悲哀／亡き弟の寝顔と語る 千石喜久  
 \* 病床雑詩 恩地孝四郎  
 \* 争闘 多田不二  
 \* 同人語 原／笹沢／多田  
 \* 編輯の後に 原

## 13 六月号（大正十二年六月八日発行）

## （第二卷第五号）

- \* 表紙〔9に同じ〕 恩地孝四郎  
 \* 雨の日の幻想／求心広告 鈴木穎児  
 \* 土より受くる悩み 中田信子  
 \* 吹雪く夕／悩ましき春／春 東 光  
 \* 昏迷／古びたる殿堂 林信一

- \* 瞥見した風景／月夜 富田充
- \* 炭山の夕暮／夜の海岸 原 丈
- \* 新神秘主義の芸術的態度〔評論〕 岡田刀水士
- \* ブロックの詩の考察〔評論〕 原 丈
- \* 詩壇時評〔評論〕 多田不二
- \* 裸身／夜の話 笹沢美明
- \* 夜霧の停車場／曇 岡田刀水士
- \* 青空／無題 多田不二
- \* 同人語〔感想〕 富田／多田／原／鈴木／笹沢
- \* 編輯の後に 原

14 七月号（大正十二年七月二日発行）

（第二巻第六号）

- \* 表紙〔9に同じ〕 恩地孝四郎
- \* 朝／父の心／納屋／夜の誘惑 原 丈
- \* 部屋／悪夢／悲報－祖母の霊前に捧ぐ－ 林信一
- \* いづこへ／惜春 風間直得
- \* 僧院／旅から帰つて この一篇を 信一兄に捧ぐ 富田充
- \* 衣を脱ぎ捨てる／健康／果物 笹沢美明
- \* 哀禱／羽根ペン／池辺の驚異 中田信子
- \* ある夕暮／影 鈴木穎児
- \* 密林の聖者／無題 東 光
- \* 蹂み潰された瞳子／朝鮮の労者 田辺若男
- \* 詩壇鳥目観〔評論〕 多田不二
- \* 再婚者の恐怖／夕暮の微笑 難波英夫
- \* 帆船 多田不二
- \* 同人語〔感想〕 笹沢／林／原／信子／直得  
多田／富田／英夫

第二年十一月号（大正十二年十一月八日発行）

（震災詩集号）

〔表紙・図版C〕

- \* 更生の街／死灰の中に 多田不二
- \* 焼け野原 原 丈
- \* 悲しい想像／愛情 笹沢美明
- \* 青白い月光 鈴木穎児
- \* 東京に言ふ／求める－ 田辺若男
- \* 海上無事／運命 富田充

第三年一月号（大正十三年一月一日発行）

- \* 花園で／安息日／予感／日曜日 富田充
- \* 隣家の幼児に／動かぬ表情 中田信子
- \* 禁酒 千石喜久
- \* 先導者／一つの真理 笹沢美明
- \* 地下室のカフェー 林信一
- \* 花を愛す／風景を愛す 岡田刀水士
- \* 勿来の冬／凧あげ／巢に帰る／更新／  
喜ばしき青春 原 丈
- \* 淋しい一本道 草野心平
- \* この頃の東京 難波英夫
- \* 愛児詩篇 多田不二

病を護る／大震の夜

- \* 編輯の後に 〔多田不二〕

第三年三月号（大正十三年二月十日発行）

- \* 詩五章 岡田刀水士
- (一) 静かな女学生／(二) 古風のカフェー
- (三) 海辺／(四) 囚人馬車／
- (五) 発車を待つ

- \* 夜霧 東 光
- \* 月夜の冒険／月夜の遠火事 草野心平
- \* 光を喰ふ 千石喜久
- \* 檻の底の牢獄のなかの／石に噛りついても 田辺若男
- \* 夢の出来事 鈴木穎児
- \* 時雨 亡友青柳定雄に捧ぐ／ひでり 富田充
- \* 果樹園／嵐のあと／堤防／父 原 丈
- \* 冬日耽思／幼児と人形 中田信子
- \* 無為 林信一
- \* 早春 多田不二



図版C



図版D

### 第三年四月号（大正十三年四月五日発行）

〔表紙・図版D〕

- \* 表紙 恩地孝四郎
  - \* 表紙解説〔表紙裏〕 恩地孝四郎
  - \* 啄木鳥の独白 多田不二  
批評の態度／舞踊詩劇について／随筆の流行
  - \* 懐疑の城砦／草舎の春 中田信子
  - \* 霊と——一切我今皆父の懺悔—— 笹沢美明
  - \* 郷土詩二篇 泉浩郎
  - \* 死の幻覚／彼女の瞳／永遠にさみしき思慕 畑中静栄
  - \* たくみな哄笑／早春挽歌 城戸英一
  - \* 夢 多田不二
  - \* 夜を明かす兄弟／廢礦 原 丈
  - \* 大漁／墓 富田充
  - \* 死 林信一
  - \* 人間が持つ二つの悲しみ 難波英夫
  - \* 冬のノートから 鈴木頼児  
枯草／小鳥／明るい野／夢／噴水
  - \* 一本の露草／秋小品／晩秋小景 東 光
  - \* 魚形水雷の如く／革命の前に 草野心平
  - \* 天上悪魔／春 千石喜久
  - \* 恵まれた夕暮 佐々木太一
  - \* 伝染病院（神谷勇氏の死に送る）／川辺の花 岡田刀水士
  - \* 編輯後記 多田不二／原丈
- ### 第三年五月号（大正十三年五月一日発行）
- \* 表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
  - \* 表紙解説〔表紙裏〕 恩地孝四郎

- \* 啄木鳥の独白〔評論〕 多田不二
- \* 盲女の今昔〔感想〕 岡田刀水士
- \* 扉／廢庭 林信一
- \* 無題 富田充
- \* 友の死 泉浩郎
- \* 公園の黎明／溶岩に立ちて 城戸英一
- \* 白梅／雲のやうな燈火 友谷静栄
- \* 森林の中にて／夜の雨／麦畑 原 丈
- \* 発狂女 千石喜久
- \* ゆがんだ顔／ベンチにて 草野心平
- \* 退屈 石原亮
- \* 窓外／音楽的風景 岡田刀水士
- \* 女体を嗜む 恩地孝四郎
- \* 怪しく風ぎたる海 東 光
- \* 編輯後記 富田充／原丈

### 第三年六月号（大正十三年六月一日発行）

- \* 表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
  - \* 五月の曇り日にうたふ詞 笹沢美明  
あるセンチメンタリストに／あるニヒリストに  
ある農夫がうたふ
  - \* 岡の少女 中田信子
  - \* 海の椅子／運命的風景 富田充
  - \* 愛慕する瞳／酔ふた小人／ねむれ、ねむれ 友谷静栄
  - \* 若葉に病む 鈴木頼児
  - \* 岩清水／友情／水車／嵐 原 丈
  - \* 妻の顔 千石喜久
  - \* 夜更け 草野心平
  - \* 訪れ来る春の悩み 佐々木太一
  - \* 冬の夜の波音／雪ぐもる夕べ 東 光
  - \* 記憶の女 石原亮
  - \* 青い形の集団／家畜 中島藤満
  - \* 密室／独語 林信一
  - \* 編輯後記 林信一／原丈
- ### 第三年七月号（大正十三年七月五日発行）
- \* 表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
  - \* 健康な果実〔評論〕 笹沢美明  
原氏の詩集『草地を踏む』概評
  - \* 都会の児／白き柩 城戸英一
  - \* このごろ夢ばかり毎夜見るのである 鈴木頼児



- \*少女よ 泉浩郎
- \*陥落／顔／奪はれし夜 友谷静栄
- \*梟 富田充
- \*目 林信一
- \*幻想／草刈鎌 原 丈
- \*教／無題／月 笹沢美明
- \*四阿に登るのは止さう 佐々木太一
- \*五月の夜／時代は歩む 中島藤満
- \*花瓶のバラ／海辺の飲食店 岡田刀水士
- \*汽車の中／筒 千石喜久
- \*合歓木と月／かなしき／カンナ 草野心平
- \*千鳥断片詩二篇 多田不二

－五月・占守にて－

- \*私信に代へて〔感想〕 多田生

第三年九月号（大正十三年九月二日発行）

- \*表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
- \*内容と言葉〔評論〕 原 丈  
泉君の詩集に就いて
- \*山麓の町に泣く／さすらひに泣き笑ひする 泉浩郎
- \*序曲／前夜／留守 友谷静栄
- \*野路 笹沢美明
- \*不眠 林信一
- \*坑夫の娘 原 丈
- \*含羞草／甦り 中田信子
- \*鴉 富田充
- \*啄木鳥の独白〔感想〕 多田不二
- \*死の影は迫る 佐々木太一
- \*地上の青淵 千石喜久
- \*絶望の風景 木下浩吉
- \*なまめかしい蠱惑 縄手琢磨
- \*慰謝／病床風景 柴山晴美
- \*母と幼児 今井慎之介
- \*百人町から〔編集後記〕 多田生

第三年十月号（大正十三年十月五日発行）

- \*表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
- \*草原の踊 原 丈
- \*病弱者の詩 笹沢美明  
友人たち(1)／妹たち(2)／女／仔馬
- \*現代ロシアの詩〔感想〕 原 丈
- \*郷土詩篇 泉浩郎

1 村の雨乞／2 魂は暴れてねむる／

3 野の女よ

- \*孤独／あらし 友谷静栄
- \*秋夜情趣／雨の日の停車場／4 紫繡毬汽車 岡田刀水士
- \*秘密 林信一
- \*叙情詩の分裂と新しき構成〔評論〕 笹沢美明
- \*小娘／乳房 東 光
- \*五月の漫步 縄手琢磨
- \*月夜の海浜に想ふ 佐々木太一
- \*白百合 今井慎之介
- \*春と地中の種 木下浩吉
- \*深夜の十字街頭 柴山晴美

－最近の私に与ふ－

- \*編輯後記 信一／美明

第三年十一月号（大正十三年十一月一日発行）

- \*表紙〔第三年四月号に同じ〕 恩地孝四郎
- \*感激と情熱〔評論〕 原 丈
- \*古墳の開拓／盂蘭盆／曠野を行く／幼き自由人を  
祈る／野薔薇のハンカチ 泉浩郎
- \*雨天昏昏 岡田刀水士
- \*母／裸体の女／夕ばえ 原 丈
- \*無題／塵 林信一
- \*短章／星に祈る 佐々木太一
- \*雨中漫步 今井慎之介
- \*果物の匂ひのする女 木下浩吉
- \*蜘蛛／陽炎 千石喜久
- \*編輯後記 丈／信一

III 『馬車』 主要目次



図版E

第一年三月号（大正十五年三月一日発行）

〔『馬車』創刊号〕

〔表紙・図版E〕

- \* 表紙 絵 栗木幸次郎  
文字 鈴木穎児
- \* 詩人と批評家へ（或は自身へ）〔感想〕 笹沢美明
- \* 離魂病者〔感想〕 阿部哲
- \* 詩による我が生活〔感想〕 鈴木穎児
- \* 曇日／文明／食慾を否む／ラジオ、ふゆ／  
留守居番／夜ふけ酔ふ群に送る 栗木幸次郎
- \* 弛んだ市街／時間を失ふ／寒い秋／その朝／  
濁つた瞳／白痴 大谷忠一郎
- \* 孤独／四月の詩／疑惑 小田揚
- \* 夜／寒い夜に 平沢貞二郎
- \* 『馬車』創刊に際して〔感想〕 多田不二
- \* 煙草のこと二つ三つ〔感想〕 栗木幸次郎
- \* 冬枯れの山／ヒューマニズム 泉浩郎
- \* 青い燭台／雪空 鈴木穎児
- \* 本能／明日 阿部哲
- \* 卓上余談〔感想〕 六号子
- \* 中央詩壇時評（一月号を読む）〔批評〕

平沢貞二郎

- \* 同人詩誌瞥見〔批評〕 多田不二
- \* 編輯余録 多田
- \* 自嘲詩篇〔裏表紙〕 多田不二

第一年四月号（大正十五年四月一日発行）

〔『馬車』第二号〕

- \* 表紙〔創刊号に同じ〕 絵 栗木幸次郎  
文字 鈴木穎児
- \* 街上戯詩 多田不二  
交番／新聞社／女ボーイ／コック／銀行員
- \* 老竹／歳暮／枯木を見ると頭が痛い／測量技師 大谷忠一郎
- \* 春／春の鳥 泉浩郎
- \* 風あげ／早春／評判／退屈な部屋／煙突／瞳 阿部哲
- \* 「女」と表現派詩人〔評論〕 笹沢美明
- \* 朝の散歩／夜更て新開地を歩む／霧の夜／  
髪をつまう 平沢貞二郎
- \* 青島／季節風／春 富田充
- \* 芭蕉を読む／少女／幸福を感じる 小田揚

- \* 海戦／日記 栗木幸次郎
- \* 枯草の丘 鈴木穎児
- \* びえろ・他〔感想〕 栗木幸次郎
- \* 卓上余談〔感想〕 六号子
- \* 春宵漫談〔感想〕 平沢貞二郎／小田揚
- \* 余録〔編集後記〕 多田
- \* 詩六篇〔裏表紙〕
- 古くなつたセンチメンタル 泉
- 三月の午後 平沢
- 春 富田
- つかれた目 栗木
- 月 大谷
- 都会一情景 多田

第一年五月号（大正十五年五月一日発行）

〔『馬車』第三号〕

- \* 表紙〔創刊号に同じ〕 絵 栗木幸次郎  
文字 鈴木穎児
- \* 批評に対する謬見〔評論〕 多田不二
- \* 煙りと恋／青い三日月／おなじく 鈴木穎児
- \* 詩集『夜の一部』に就て〔感想〕 同人
- \* さくら／秋晴の停車場にて／退屈な日曜／  
のどかな目覚め 小田揚
- \* 途上／吹雪／風／人生 大谷忠一郎
- \* 奇怪な動物／白腹が光るよ／あくび／  
陽だまりで／春／三月の天龍－高橋兄に贈る－  
平沢貞二郎

- \* 雑感〔感想〕 阿部哲
- \* 私のこと〔感想〕 多田不二
- \* 童言拾草 愛児詩篇より 多田不二  
鳥／天／お月さん／雀／風
- \* 曇日 青龍橋駅で／春／祭 富田充
- \* 芍薬草／長屋／花見／電信柱／ジレウマ 阿部哲
- \* 明るい季節のために／美しい蛇／白昼夢の猿／  
やせた馬 栗木幸次郎
- \* 尻切れとんぼ（散文詩）／貴い糧 笹沢美明
- \* 同人詩誌瞥見－四月号－〔批評〕 多田不二
- \* 中央詩壇時評－四月号－〔批評〕 栗木幸次郎
- \* 編輯余録 多田／平沢／栗木／穎児／小田

Ⅳ 第二次『帆船』主要目次



図版F

第五年六月号（大正十五年六月一日発行）

〔夜の一部〕合評号〔第二次『帆船』第一号〕

〔表紙・図版F〕

- \* 表紙「三つの帆船」クールペー筆
- \* 感情時代のおもひで〔感想〕多田不二
- \* 詩人論〔感想〕笹沢美明
- \* 早春／NOSTALGIA／楽器／霧富田充
- \* たんぽぽ／おなじく／おなじく／おなじく／  
おなじく鈴木穎児
- \* 夕暮れをなくした私／道化男／五月の夜の精／  
ある春の夜に／春雨の夜－或る活動写真館で－  
平沢貞二郎
- \* 「夜の一部」合評
  - 「夜の一部」寸言大谷忠一郎
  - 「夜の一部」の感想平沢貞二郎
  - 素張らしい内容鈴木穎児
  - 読後感小田揚
  - 詩集「夜の一部」の感想阿部哲
  - 〔無題〕栗木幸次郎
  - 「夜の一部」の合評に泉浩郎
  - 多田不二の詩について笹沢美明
- \* 屋根の憂鬱／朝寝／朝の微笑／明るい夕暮／山小田揚
- \* 玉葱／蠟燭／誘惑阿部哲
- \* 短詩泉浩郎
- \* はつなつに栗木幸次郎

\* 爪／無題詩大谷忠一郎

\* 中央詩壇合評（五月号）〔批評〕

鈴木穎児／平沢貞二郎／小田揚

\* 編輯余録多田／平沢／穎児／小田

第五年七月号（大正十五年七月一日発行）

〔第二次『帆船』第二号〕

- \* 表紙〔第五年六月号に同じ〕クールペー筆
  - \* 点魚村莊雑文〔感想〕多田不二
  - \* この街／記憶－「夜の一部」の著者におくる－  
笹沢美明
  - \* はつなつの風／悲しい認識／一人の少女の死  
平沢貞二郎
  - \* 梟／蛙阿部哲
  - \* 村／沈鬱な緑色／頭髮／眼／喫煙中毒大谷忠一郎
  - \* 「夜の一部」を読む〔批評〕富田充
  - \* 日本詩集を読む－（一九二六年版）－〔批評〕  
平沢貞二郎
  - \* 桐の花と曇天／そこの家には若い夫婦が住んでゐ  
る／歯痛小田揚
  - \* 勝負ごと他七篇栗木幸次郎
  - \* ALEXANDRIAのパザー／国境／朝／公園富田充
  - \* 梟の遠音／はつ夏の草原鈴木穎児
  - \* 卓上余談〔六号雑感〕六号子
  - \* エルゼ ラスケル＝シューレルに就いて〔評論〕  
笹沢美明
  - \* 編輯余録美明／平沢／揚
- 一九二七年一月号（昭和二年一月十五日発行）
- 〔第二次『帆船』第三号〕
- \* 点魚莊冷言〔感想〕多田不二
  - \* 金柑の砂糖煮その他〔感想〕笹沢美明
  - \* 北国のピエロ／小さな蛤大谷忠一郎
  - \* 驢馬富田充
  - \* 浮かぬ顔／まつくらい部屋／たいくつ／秋の雨  
鈴木穎児
  - \* 暮れがたを歩む／恋愛詩三篇阿部哲
  - \* ぶらつとほむで／私たちはもつてゐる白と黒／  
雨日栗木幸次郎
  - \* じゅん・こ・きん〔感想〕鈴木穎児
  - \* 受贈詩書短評〔批評〕同人

- \* 火事／それから／リヒャルド・デーメル  
村道にて美明訳
- \* 某停車場付近の風景／無題小田揚
- \* 意想詩三篇多田不二  
自画像め／顔1／2
- \* 明るく暗い心／石屋／街燈／人間達の群に平沢貞二郎
- \* 燕／霊柩車／丘の上で笹沢美明
- \* 詩壇月評－十二月号－〔批評〕平沢貞二郎
- \* 編輯余録栗木／平沢／小田／多田

- \* 生活を歌ふ／私は何故彼が強盗をしたか知つて  
ある／町が恋しい－外交員の詩－  
百貨店にて／アサクサ／寒夜読書小田揚
- \* 近火／くらがりなれば／あくびするより／  
女人像栗木幸次郎
- \* トランプと女の埃及模様／后後の恋人と会ふ／  
食卓大谷忠一郎
- \* 詩誌私見〔批評〕  
一月の詩鈴木穎児  
二月の詩笹沢美明
- \* 編輯後記多田



図版G

一九二七年三月号（昭和二年三月一日発行）

〔第二次『帆船』第四号〕

〔表紙・図版G〕

- \* 表紙〔栗木幸次郎〕
- \* 怪魚巻言〔散文〕多田不二
- \* 路賊〔散文〕ダン・セニイ  
竹村俊郎訳
- \* 一片のセンチメント－老犬クラサターの  
こと－インメル・パウエン笹沢美明
- \* 靴／荷馬車阿部哲
- \* あいつ／一切は明るくならうか／  
都会人のいそがしさ／猿平沢貞二郎
- \* 意想詩『自画像』ノ二多田不二  
街上感覚詩／素描
- \* 断片的なる思ひ出〔散文〕小田揚
- \* 新著詩書短評〔批評〕多田不二
- \* らんぶ／北風／風行機風／さむい風鈴木穎児

V 『更生』 主要目次



図版H



図版I

五月号（大正十四年五月三十日発行）

〔創刊号〕

〔表紙・図版H〕

- \* カット〔表紙〕小田直
- \* 浮浪者の日ざし／春の小景阿部哲
- \* 秋のある日／ぼろ自動車／一日の終りに平沢貞二郎
- \* ある航海者の詩／一九二四年の日記／はる小田揚
- \* 磯部にて／寂しくひげをそる乃木薫

第二号（大正十四年六月三十日発行）

〔表紙・図版I〕

- \* カット〔表紙〕小田重
- \* 春阿部哲
- \* 休もうよ／夏平沢貞二郎
- \* 逃げて行つた幸福／晩春の詩／  
何故私は苦しまなければならないのか小田揚
- \* 木精のかほる夕／磯部にて／深夜／  
ポプラは風になびく乃木薫



図版J



図版K

第三号（大正十四年七月三十日発行）

〔表紙・図版J〕

- \* 夏・公園（カット）〔表紙〕 小田重
- \* おたまじやくし／顔 阿部哲
- \* 尖り易い感情 平沢貞二郎
- \* 都会と田園の私生子がうたふ夏の断章 小田揚
- \* 夏来る／毒瓦斯 乃木薫
- \* 或作品からの印象 鈴木松代
- \* 青磁の花瓶に 邦枝英美夫
- \* 逝く春の野 外処芳江
- \* 編輯後記 小田

第四号（大正十四年八月三十日発行）

〔表紙・図版K〕

- \* 無限（カット）〔表紙〕 小田重
- \* ある夜の星／蝶 平沢貞二郎
- \* 少年の日の追憶三篇 小田揚
- 夢を啖べる／巡礼／仙台の思ひ出
- \* 嵐 鈴木松代
- \* 焦慮 大谷忠一郎
- \* 六号断片〔手記〕 小田揚
- \* 六号雑記〔手記〕 平沢貞二郎
- \* 編輯後記 小田



図版L



図版M

第五号（大正十四年九月三十日発行）

〔表紙・図版L〕

- \* 愛（カット）〔表紙〕 小田重
- \* 家庭 阿部哲
- \* 奈良にて／京都にて 小田揚
- \* 蜘蛛 平沢貞二郎
- \* 茸 鈴木松代
- \* 八月下旬 大谷忠一郎
- \* 張子の虎 仲貞
- \* 夕顔の靈感 いんげん 葉山ハルヲ
- \* 田舎の夜 外所芳江
- \* 編輯後記 〔小田揚〕

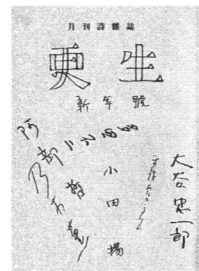
第六号（大正十四年十月三十日発行）

〔表紙・図版M〕

- \* ダリヤ（カット）〔表紙〕 小田重
- \* 秋／憂鬱なる快樂 阿部哲
- \* 巷・夕暮一日比谷にて－／秋（死にかけてゐる） 小田揚
- \* 神秘のともし火 鈴木松代
- \* 哄笑する男の詩 白須孝輔
- \* 夜更けの神楽坂 平沢貞二郎
- \* 昆虫二篇 大谷忠一郎
- 松林／傷心
- \* 六号雑記〔雑記〕 〔小田揚〕
- \* 二重人格者の手日記〔雑記〕 阿部哲
- \* 雑感〔雑記〕 平沢貞二郎
- \* 編輯後記 小田



図版N



図版O

第七号（大正十四年十一月三十日発行）

〔表紙・図版N〕

- \* 望み（カット）〔表紙〕 小田重
- \* 昼夢 阿部哲

- \* 窓 大谷忠一郎
- \* 電磁石を持つ子供／秋はやせながら行く 平沢貞二郎
- \* 日南ぼつこ 小田揚

第八号（大正十四年十二月三十日発行）

〔表紙・図版O〕

- \* 表紙〔同人寄せ書き〕 多田不二
- \* 無題詩二篇 阿部哲
- \* 曇天 大谷忠一郎
- \* 安煙草の吸殻 平沢貞二郎
- \* 澄んだ井戸／家を越そう 小田揚
- \* 冬／十二月・都会 阿部哲
- \* 二重人格者の手日記〔雑記〕 六号子
- \* 卓上余談〔雑記〕 小田揚
- \* 編輯後記の六号断片〔雑記〕

- \* 断片的なる－(二) 小田揚
- \* 空中炸裂（九，十月号詩評）〔詩評〕 笹沢美明
- \* 編輯余録 栗木／平沢



図版Q



図版R

新年号（昭和二年十二月廿八日発行）

〔表紙・図版Q〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 月夜 多田不二
- \* マニラの煙草／瞳／叩きつけよ 森佐一
- \* 獅子は人気者／暮れる風景／虎夫人 栗木幸次郎
- \* 闇夜 勝山脩
- \* 風鈴／コスモス 小田揚
- \* 俺は疲れてみたんだ 平沢貞二郎
- \* 編輯余録 栗木／小田／平沢

二月号（昭和三年二月一日発行）

〔表紙・図版R〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 余白〔口絵，木版画〕 栗木幸次郎
- \* ポンチ画かき 栗木幸次郎
- \* 馬 平沢貞二郎
- \* 土葬／くびつり／太陽／鳥／大地／百合／小鳥 森佐一

- \* 破産 小田揚
- \* 駅〔課題散文，小田出題〕 栗木幸次郎
- 駅 平沢貞二郎
- 駐車場の横顔其他 小田揚
- 停車場雑筆 森佐一
- 停車場（なんせんすすとおりい） 栗木／栗木／平沢
- \* 編輯余録

VI 『金蝙蝠』 主要目次

（ゴールデンバット）



図版P

拾二月号（昭和二年十二月十日発行）

〔表紙・図版P〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 誤まれたる芭蕉〔感想〕 平沢貞二郎
- \* ハイカシコマリマシタ 栗木幸次郎
- \* 坂の喫茶店で／見世物小舎 栗木幸次郎
- \* 或物語／極致／憂鬱／家鴨 森佐一
- \* 曲馬団スケッチ 小田揚
- \* 焦燥 森佐一
- \* 道／その時の私 平沢貞二郎



図版 S



図版 T



図版 U



図版 V

第二年五月号（昭和三年五月一日発行）

〔表紙・図版 S〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 現実をみつめよ／イズムに就いて〔評論〕 竹村俊郎
- \* 冬暮景詩篇 勝山脩
- 焚火／夕月
- \* 彼／夜店商人 小田揚
- \* プロ感傷 佐藤晴吉
- \* 夜をたゝく／虐げられた彼 平沢貞二郎
- \* 箱づめの赤子／寝棺の赤子 森佐一
- \* 四月の詩より〔批評〕 小田揚
- \* 第三回金バット小集記 平沢
- \* 編輯後記 栗木幸／平沢

第二年六月号（昭和三年六月一日発行）

〔表紙・図版 T〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 土曜日の夕／生命を喰べる彼等／灰色の室 平沢貞二郎
- \* 火葬場へゆく道／猫と鼠と人間 佐藤晴吉
- \* 五月の意想詩 多田不二
- \* 続曲馬団 小田揚
- \* 花のうた 竹村俊郎
- \* 芹と土工と小市民／土工とどぜう／百姓とどぜう 森佐一
- \* 五月の詩より〔批評〕 平沢貞二郎
- \* 第四回金バット小集記 小田
- \* 編輯余録 森／平沢

第二年七月号（昭和三年七月一日発行）

〔表紙・図版 U〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 芸術家〔口絵、画・刻〕 栗木
- \* 寂しき職業婦人／五月一日 小田揚
- \* 下男の死／太陽が死んだ／水仙 佐藤晴吉
- \* 蒼ざめた馬 笹沢美明
- \* 街の小民／一人の男 平沢貞二郎
- \* 彼女との間／動物園の馬 栗木幸次郎
- \* 燕のやうな男（断想）〔感想〕 笹沢美明
- \* 編輯余録 栗木幸／佐藤／揚／平沢

九月号（昭和三年八月一日発行）

（一周年記念号）

〔表紙・図版 V〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕
- \* 詩についての断想〔評論〕 竹村俊郎
- \* ある戯画の詩 カリカチュア 多田不二
- \* 伴侶 尾崎喜八
- \* 血（ある友へ）／芽 笹沢美明
- \* ひぐれ 中田忠太郎
- \* 三畳一間の家々／月給取 平沢貞二郎
- \* 独身者 佐藤晴吉
- \* 俵夫の詩 郡山弘史
- \* 高台漫筆〔感想〕 多田不二
- \* 狂人の家（短篇） 森佐一
- \* 疲労残溜 石川善助
- \* かなかな 江口隼人
- \* 門／老人と若き私／彼女と画家 栗木幸次郎
- \* 心臓は破れてゐる 野田欣三
- \* 妾 めかけ 小田揚

- \* 独逸抒情詩抄 村野四郎訳  
 二月／四月 テオドル・ストルム  
 私が死ぬとき グスタフ・ファルケ  
 \* 編輯余録 平沢／小田



図版W

第二年十一月号（昭和三年十一月一日発行）

〔表紙・図版W〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕  
 \* 二詩集の読後〔批評〕 竹村俊郎  
 \* 「街の小民」感／「抛つ」断想〔批評〕 笹沢美明  
 \* 凡人の詩二つ 都築益世  
 旅先から友への通信／旅先から妻への通信  
 \* 少女とめしや 小田揚  
 \* 夕暮小景 佐藤晴吉  
 \* 静かなる嵐／朝は空しい涙を手の甲に落した 野田欣三  
 \* 退屈（散文詩）／濡れる（散文詩） 一瀬直行  
 \* 新著「鋸」「芋畑の詩」読后感〔批評〕 平沢貞二郎  
 \* 「閑雅なる風景」 一瀬直行  
 \* 二詩集出版記念会 無署名  
 \* 編輯後記 平沢

第二年十二月号（昭和三年十二月一日発行）

（第十三輯）

- \* めし屋で／第三階級／俸給生活者の詩 小田揚  
 \* 妊婦へ 石川善助  
 \* 女よ 野田欣三  
 \* 母の寝顔 都築益世  
 \* おつかはん／銀作爺の話／立小便 杉山市五郎

- \* 寂しい朝 倉橋弥一  
 1、歩きながら／2、薄暗い部屋で  
 \* 崩れゆく町／生活意識 平沢貞二郎  
 \* いちにち／夏のある夜 一瀬直行  
 \* 受贈詩書紹介 一瀬直行／平沢貞二郎／小田揚  
 \* 同人語 一瀬／小田／平沢



図版X

第三年第一号（昭和四年二月一日発行）

（十四輯，廃刊号）

〔表紙・図版X〕

- \* 〔表紙版画〕 〔栗木幸次郎〕  
 \* 模索の途上－当来芸術の技巧に就て－〔評論〕 田端拾吾  
 \* 蛙 多田不二  
 \* 夜（散文詩） 一瀬直行  
 \* ぼくらの力で生きる／夜逃げを追ふ 平沢貞二郎  
 \* 飢餓 石川善助  
 \* 影／蠅 都築益世  
 \* 大川端／母の病気 倉橋弥一  
 \* かたまる彼女等 小田揚  
 \* ●／雀 杉山市五郎  
 \* 模様のある敷布／蛙氏／私はなぜ死んだらう／ 栗木幸次郎  
 戯れる空地  
 \* 歳晚閑談〔感想〕 倉橋弥一  
 \* 新刊書批評〔批評〕 一瀬直行  
 \* 金蝙蝠への辞 倉橋弥一  
 魔刊の言葉  
 最後に 小田揚  
 断片 一瀬直行  
 より高き進展への一步として 平沢貞二郎



## VII 『帆船』から『金蝙蝠』への流れ

多田不二（明治26～昭和43）は、茨城県結城生まれの詩人である。詩集『悩める森林』（感情詩社、大正9.2）と『夜の一部』（新潮社、大正15.4）があり、雑誌『卓上噴水』に訳詩を発表し、『感情』同人であったにもかかわらず、後半生をNHKで過ごしたためか、詩界での関心は高くないようである。桐原光明氏による『多田不二—結城の詩人一』（ふるさと文庫、筑波書林、1985.9）が出て多田不二再認知の嚆矢となり、その後、不二の息女・多田曄代氏を中心とする関係者の努力と連携により『多田不二著作集 詩篇』（潮流社、1997.7）と『多田不二著作集 児童文学・評論篇』（潮流社、1998.12）が刊行され、不二の文業の主要部分を読むことができるようになった。更に、不二の遺稿「現代の詩と詩人」が、星野晃一編著『新生の詩』（愛媛新聞社、2002.8）という形で公刊された。多田不二研究の環境はおおよそ整ったと言えよう。

しかし、例えば多田不二の詩人としての最盛期であった『帆船』時代を近代詩の潮流の中に位置づけようとする時は、まず、不二が主宰した第一次『帆船』（大正11.3～）、同誌改題『馬車』（大正15.3～）、第二次『帆船』（大正15.6～）、同誌に合流した『更生』（大正14.5～）、第二次『帆船』の発展としての『金蝙蝠』（昭和2.9～、現物未確認）、そして野島辰次主宰の『今日』（昭和4.5～4.8、全4冊）にいたる詩人達の離合集散の実態、詩業と時代との係わりなど、その全体像の把握が必要なのである。<sup>2)</sup> そこで本論では、『今日』を除く『帆船』から『金蝙蝠』にいたる雑誌の主要目次を優先して掲出し、その後紙面の許す限り、各誌について主要目次からは読み取れない同人の異動や雑誌創刊、休（廃）刊、復刊の経緯や趣旨などの要点を記すことにより、近代詩潮史においてこれまで認知されることのなかった流れに歴史の舞台に再登場してもらおうと思った次第である。

第一次『帆船』の編集兼発行人は多田不二で、居住地は東京市外大森沢田706、帆船詩社も同所。第2号から東京市外大久保百人町195に転居し、『馬車』創刊号から東京市外調布村下沼部705に移っている。発売所は、第一次『帆船』の第1号から第4号まで東京市牛込区早稲田大学正門前の稲門堂書店、第5号から稲門堂の名前は消え、『馬車』創刊号から第二次『帆船』まで東京市麻布区拾番通りの緑葉社書店の名前が載る。第一次『帆船』第1号の奥付に「帆船清規」が掲げられ「帆船詩社は主として神秘主義の研究作品及詩の創作を愛好する人々によつて組織す／（略）「帆船」の発行について特別の関係ある者を同人と定む／（略）「帆船」は同人、社友以外に寄稿家の作品をも掲載す／「帆船」は多田不二編輯主宰す（略）」などとある。一方、表紙の裏には『帆船』の「創刊宣言」とでも言うべき文章が掲載されている。全文を掲げたいところであるが、紙面の都合で省略する。この宣言は、第6号からはやや縮約して第8号まで掲げられ、以後削除された。清規の方は、第5号から簡潔になり、寄稿を謝絶し、社友を廃して同人のみによる組織とし、誌友を新たに設けた。この清規も第8号以降削除された。そうした経緯から『帆船』が詩誌として、（新）神秘主義から脱皮して一般詩誌に転じようとした意図を読み取ることもできよう。

同人の推移が詩誌としての動静を知る手がかりとなるので、以下それを中心に述べる。創刊当初は明確な同人組織はなかったようで、林信一が編集の手伝いをしている。第5号になり同人組織をとると宣言して、林信一、笹沢美明、中田信子、原丈、中西悟堂、難波英夫、田辺若男、東光、宮崎孝政、都築益世、角田竹夫、鈴木顕児、横沢千秋、千石喜久、村田信一、多田不二を同人として

紹介し、旧感情詩社の室生犀星、萩原朔太郎、竹村俊郎、恩地孝四郎は特殊同人とし、佐藤惣之助、白鳥省吾、福士幸次郎、川路柳虹、百田宗治等は執筆協力という扱いにした。第6号で宮崎孝政が『森林』に加入し退会、新たに富田充、岡田刀水士が同人となる。「両君とも今まで私とは未知の人」という。これまで岡田は萩原朔太郎の紹介で『帆船』に加わったと当然のように記述されていたが、その辺の事情はこれ以上確認できない。第8号の同人は、不二の他に原、林、富田、千石、岡田、田辺、中田、難波、中西、東、笹沢、鈴木。特殊同人は萩原、恩地、竹村、室生の4人。

第10号には、よく引用される記述が「編輯後記」にある。『感情』との継承性を表明する一文で「(略) 去年旧同人が集まって再び『感情』を出さうかといふ相談がほゞ纏まり、『第二感情』と名付けようか『独乙黒』と名付けようかといふ様な点まで行つたが、期が熟しなかつた為めか、そのまゝ中止する様な事になり、その際、経営費の一部として竹村氏から当時編輯の仕事を引き受けた萩原氏の手元まで三十円寄贈してあつた。処が上述の次第でその儘萩原氏が保管してたところ、『感情』復活も暫く延期する事になつたので旧同人合議の上創刊以来『感情』と因縁浅くない本誌に同金額を基本資金として廻してくれた。同時に室生氏も、萩原氏も恩地氏も竹村氏もこれからはもつと密接な関係をもつてすべての方面で親身に尽力してくれる事になつた。」と述べている。当時詩壇では、『日本詩人』（大正10.10～15.11）、『詩聖』（大正10.10～12.9）、第二次『明星』（大正10.11～昭和2.4）、『詩と音楽』（大正11.9～12.10）が主導権を握っていた。他に正富汪洋主宰の『新進詩人』（大正7.3～）があり、川路柳虹主宰の『現代詩歌』（大正7.2～10.7）は、『炬火』（第一次、大正10.9～12.1）と改題したが大震災前に休刊、暫くして再刊する（第二次『炬火』、大正15.4～昭和3.5）。これらの詩雑誌は日本近代詩の基礎を築いた雑誌群であり、特に詩話会の機関誌であった『日本詩人』は詩壇の登竜門の役割を果たしており、同時期に創刊された『詩聖』『明星』と一年余遅れた『詩と音楽』の三誌がそれを補う形であった。『日本詩人』より一足先に出て詩話会に対抗していた『新詩人』（大正10.5～）の勢力は衰退に向かっていた。<sup>3)</sup>

そうした状況下で、多田不二が、『帆船』大正12年新年号である第9号前後から従来の枠からの脱皮を計ったことは十分に考えられる。その具体化が、創刊号以来継続してきた恩地孝四郎の表紙のデザインを第9号から新しい物に替え、同じく創刊号以来掲載してきた「創刊宣言」を削除するという形で表されたのではないかと考えられる。そして、第10号の「編輯後記」に同人向けに書きこんだ『感情』から『帆船』への継承性の表明も、同じ流れの中でなされたのではないか。それは、『日本詩人』の権威主義に対する批判でもあった。第13号の「同人語」で不二がそうした趣旨の発言をしたのに対して、第13号の「同人語」（不二執筆）が、『日本詩人』側から白鳥省吾が早速反論の手紙を寄こしたと伝えていることからそれは裏付けられる。関東大震災を挟んで『詩聖』と『詩と音楽』が廃刊したのに対して『帆船』が生き延びたのは、不二の反権威主義に賛同した『帆船』同人の結束力に負うものであったと思われる。

同人の異動を続ける。第11号によると、多田不二が一人でやっていた『帆船』の経営に笹沢、原、富田を加えて4人で行い、同人以外の寄稿は断る、とある。「岡田刀水士氏は前橋に居住し萩原と最近屢々交遊して関係上次号に「青猫」の著者を論評する。」とあるのも貴重な証言である。同号が『青猫』合評号であったのに岡田評が載っていないことに対する弁明のようにも聞こえる。第12号から大井さち子が参加、第14号から風間直得が参加。第三年一月号と三月号に新たな「帆船同人清規」が掲載され、編集同人と単なる同人に分け、従来断ってきた同人参加を広く求めることにした、

とある。第三年四月号において不二は、「本誌も創刊三週年に達した、これを機会に多少の革新を図つた。」とあり、まず、恩地に依頼して三回目の表紙のデザインの衣替えを行っている。そして、直接編集に係わる同人として泉浩郎、畑中静枝、城戸英一の3人、編集同人としてこの3人の他に笹沢、原、中田、林、富田、不二の6人を加え、同人として東、難波、鈴木、千石、岡田、佐々木太一の6人を挙げる。第三年六月号の寄贈新刊の欄に宮沢賢治の『春と修羅』が挙げられてあるのは、筆者にとっては思いがけない発見であった。第三年九月号によると、新同人として柴山晴美、縄手琢磨、今井慎之介、木下浩吉を挙げる。第三年十月号によると、林と笹沢が編集とあり、岡田が高崎に移り編集同人になったともあるが、実際参加した形跡は見当たらない。

『帆船』は、同人のエネルギーが衰退の方向にあったようで、大正13年末に廃刊となり、大正14年は動きがなかった。ところが、大正15年を迎えて、多田不二は新人のエネルギーを吸収して再出発した。その新人グループが『更生』の同人である。今そのグループがどのようにして出来たのか明らかにできないが、小田揚、阿部哲、大谷忠一郎は福島出身、小田重（直は重の誤植か）が小田揚の兄弟とすれば4人は同郷ということになる。平沢貞二郎は福井出身で当時東京にいたのであろう。H氏賞の創設者として知られる平沢の詩人としての閲歴を筆者はほとんど知らない。手元に平沢貞二郎詩集『街の小民』（金蝙蝠社、昭和3.9、装幀と版画・栗木幸次郎）と平沢「私はH氏である」（『新潮』昭和43.3）があるだけである。この文章では『感情』と『帆船』については述べてあるが、『更生』と『金蝙蝠』には触れていない。『更生』の編集者は第二号まで乃木薫、第三号以降はすべて小田揚。更生詩社の住所はすべて東京市外代々幡町幡ヶ谷南笹塚1082で、これは小田揚の住所のようだから、小田が発行の中心にいたようだ。小田と平沢はともに明治37年の同年生まれで、大谷は明治35年の生まれである。『更生』同人は、第二号によると、阿部哲、平沢貞二郎、小田揚、乃木薫の4人。第六号から大谷忠一郎と赤村洋三が参加。第八号（最終号）の表紙は、恐らく終刊を記念して、赤村を除く5人と不二の署名で飾っている。『更生』同人が不二に敬意を払っていた何よりの証拠である。

『馬車』誕生の経緯は、創刊号の多田不二「『馬車』創刊に際して」に詳しい。『更生』同人の阿部、平沢、大谷、小田の4人の勧めで不二は、大正15年3月『馬車』創刊に踏み切ったのである。それに『帆船』の旧同人の笹沢、鈴木、泉の3人が協力、栗木と竹村が応援した。『帆船』の旧同人の内、原、東、千石、中田、林、富田等は何らかの事情ではずれている。発行所は「帆船詩社」から「帆船社」としたが、「帆船」の名前は残している。しかし、『馬車』は3冊で終わりを告げる。そして、大正15年6月改めて『帆船』の誌名に戻り、巻次も第一次を継承して第五年六月号とし、不二の第二詩集『夜の一部』の合評号として再出発した。不二は巻頭に「感情時代のおもひで」を載せて詩人としての原点回帰を示し、「編輯余録」で『帆船』に戻った理由として誌名に「現在余りに類似のものが多い。」ということ挙げ、「旧来の『帆船』とは全然別個のものである。」と述べる。第二次『帆船』第一号の同人は、『馬車』参加の10人に富田を加えた11人。一九二七年三月号から泉が抜けて10人。第二次は2冊出て、暫く間を置いて3冊目が出た。栗木と笹沢が編集を引き受けて遅れたという。そして、一九二七年三月号が終刊号と言われている。予告のないままの終焉であった。各種文学事典類に記されているように『帆船』は全28冊、『馬車』は全3冊である。

しかし、平沢貞二郎等のグループは、詩誌の発行を諦めず、機会を窺っていたようで、昭和2年の後半に『金蝙蝠』なる詩誌を立ち上げた。創刊号等未見の号もあるが、創刊は昭和2年9月と推

測される。昭和4年2月発行の第3年第1号に「廃刊号・第十四輯」とあるので、全14冊とすれば、筆者の手元には昭和2年の拾二月号から廃刊号まで10冊がある。全冊が揃う見通しもないので、ひとまず10冊を対象にして主要目次を公表することにした。『金蝙蝠』の編集実務は、平沢貞二郎、栗木幸次郎、小田揚の3人が担当していたと思われる。10ページ前後の薄冊が多く、20ページのが2冊、最終号は23ページである。盛岡から森荘巳池が新鋭の詩人として参加し、『銅鑼』と並行して意欲的に詩を発表し続けているのが注目される。第二年五月号から佐藤晴吉が参加、第二年十一月号から合同詩集『鉞』（中川書店、昭和3.7）の著者、一瀬直行、倉橋弥一、都築益世が加入。この3人は第二次『炬火』終刊により発表の場を求めて移ったのである。一周年記念号から野田欣三が参加、続けて第二年十二月号から杉山市五郎が参加する。しかし、プロレタリア文学運動の隆盛の中、中心の3人はプロレタリア文学への傾斜から『金蝙蝠』を廃刊させたのである。

本論は、資料的に不十分なところもあるが、多田不二という詩人の包容力ある個性が、『帆船』『馬車』同人と『更生』同人を結びつけ『金蝙蝠』を誕生させたアウトラインを明らかにすることができたと思う。それら詩誌の10年にわたる消長はこれまで近代詩潮史の中にほとんど埋もれていたのである。

## 注

- 1) スペースの関係で、掲載表紙の縮小の比率は2種に分けた。
- 2) 雑誌『今日』については、拙論「『今日』という名の雑誌」（『日本古書通信』第67巻第6号、2002.6）に主要目次と解題を載せてあるので参照されたい。また、二次に渡って発行された『帆船』は、大正11年3月創刊され大正13年11月終刊行したものを第一次と呼び、大正15年6月再刊され昭和2年3月終刊したものを第二次と呼ぶことにする。
- 3) 『新詩人』の終刊は、各種の文学事典等では大正13年10月となっているが、大正14年3月発行の第25号が筆者の手元にあり、奥付等が欠けていて確認できないが、第26号と推測できる号もあるので、慎重に扱うべきと思う。
  - ・本論は、多田暉代氏から贈呈いただいた前出の『多田不二著作集』2冊、星野晃一氏の編著『新生の詩』に教えられるところが多かった。『森荘巳池詩集 山村食料記録』（森三紗解説・改題、入沢康夫跋文、未知谷、2003.11）からも示唆をうけた。一般向けの必須文献として『神祕の詩の世界／多田不二詩文集』（講談社文芸文庫、2000.9）がある。
  - ・凶版の掲出にあたっては、著作権継承者として恩地孝四郎の場合は恩地元子氏の、栗木幸次郎の場合は栗木映氏の承諾をえた。改めて感謝申し上げる。小田重（直）の関係者は尋ねあてることができなかった。御存知の方は教示いただきたい。
  - ・印刷の関係上横組を用いたので、原資料の縦組の体裁を替えていること、特に読点は原則としてカンマに置き換えたことを断っておく。漢字は原則として新字体に直した。
  - ・本論をなすに当たっては機関としては特に群馬県立土屋文明記念文学館、個人としては浦田敬三氏のお世話になった。資料の購入で長年にわたりお世話になった古本屋さんも多い。改めて感謝申し上げます。